



家康の書状を目にする参加者
|| 静岡市葵区の静岡商工会議所会館

家康の書状読解

静岡で徳川
みらい学会

天下統一の道「たどる」

家康公
顕彰
400年

一への道のりについてと、信用度が低い」と指摘。長篠の戦いに

徳川時代の歴史的意義を県内外へ伝える「徳川みらい学会」は24日、徳川家康が書いた古文書を読解・解説する企画「家康の書状を読む」を静岡市葵区の静岡商工会議所会館で開いた。同会の会員約50人が家康の天下統一の史料などを考慮す

本多隆成静岡大名誉教授が講師を務め、家康がくずし字で記した豊臣陣営との戦いに関する書状2通を解説した。小牧・長久手の戦いの戦果を家臣に伝えた手紙について本多名誉教授は「敵軍の犠牲者数が書かれているが、石田三成らの挙兵を受けて家康が上方へ向かう際の書状については、関ヶ原の戦いに至る経緯を中心に解説した。

と指摘。長篠の戦いに勝利した織田信長の書簡を例に「成果を誇大に報じるのは、戦勝報告によく見られる」と解説した。